

押分排水機場で排水運転

平成 17 年度の出水期に向けて、排水機場・設備の機能保持を目的とした排水運転（管理運転）が、3月4日（金）に岩沼市の建設部長、土木課長他数人の参加で行われました。

この排水運転は、五間堀川の出水の心配が少なく、水位が安定している毎年3月頃に、宮城県管理の分派水門を全閉にし、名取土地改良区の管理する三又水門を全開にして、押分排水機場の沈砂池に水をため、実際に20 m^3/s の排水ポンプを運転して沈砂池の水をかき出すものです。排水機場には、20 m^3/s のポンプ2台が設置されていますが、排水運転では、第1号ポンプは約8 m^3/s 、第2号ポンプは14 m^3/s 程度の単独運転となりました。

（実際は五間堀川の水量が少ないため、20 m^3/s の最大出力運転ができなく、ポンプが連続運転出来る範囲での慣らし運転を行ったため）

押分排水機場は、平成12年3月に完成し、今まで実際にポンプが運転されたのは、平成14年7月・台風6号出水による7時間運転の1回だけです。昨年の台風では、運転間近の水位まで上昇しましたが、ポンプ運転水位（志引橋2.5m）には達せず、運転は見送られました。

排水運転は、実際の洪水時に問題なくポンプが稼働するよう備えるため、毎年1回この時期に実施し、操作員が運転手順を確認すると共に、岩沼市民の安全な生活に寄与する「安心」を確保する目的で、管理運転として実施しています。今回は、特に大きな問題もなく終了致しました。



排水運転中の表示盤を確認する関係者

災害対策に関する意見交換会開かれる

3月10日（木）に仙台河川国道事務所・第一会議室において、地震や風水害などの大規模な災害時に、ボランティアとして協力していただける「防災エキスパート」（公共土木施設の設備、管理等に長年携わり、一定のノウハウを持った方）との意見交換会が開催されました。

会では、「どのような時に、防災エキスパートの支援を受けるのか」、「何を支援してほしいのか」、「何が支援できるのか」等について、熱心に意見の交換が行われました。岩沼出張所では、今後予想される「宮城県沖地震」や昭和61年8月洪水と同等な大規模災害等に、支援していただけるよう、日頃から「防災エキスパート」（建設省や国土交通省を退職された大先輩方）との関係を大切にしていきたいと考えています。

前田排水樋管の排水路に管理用通路を設置

「阿武隈川管理施設修繕工事」（請負者：（株）松浦組、工期：3月30日）の五間堀排水樋管・上屋施工に伴い、前田排水樋管の排水路に鉄筋コンクリート・ボックス・カルバートとL形擁壁を設置しました。

前回、平成8年度の五間堀排水樋管の改築、五間堀排水機場の新設工事では、前田排水樋管の排水路に、仮設の橋を架けたという経過を聞いておりますが、今回は、今後の五間堀排水樋管の修繕等も考慮に入れて、河川管理用通路として施設を現地に存地することに致しました。

今後は、河川のパトロールや維持修繕工事等に活用していきたいと考えています。地元の方も自由に、有効活用をお願い致します。



前田排水樋管前の管理用通路

阿武隈川水系河川整備基本方針（第3回）

第3回目は、「流域及び河川の概要」のうち、阿武隈川流域の歴史と中流から下流部・宮城県内の動植物や魚類、「阿武隈川の河川名の由来」等の記載です。今回も読んでいただければ、理解できる部分かと思われます。

中流から下流にかかる宮城・福島県境の阿武隈溪谷は、廻り石をはじめとして数多くの奇岩が点在し、壮大な溪谷景観を形成しており、宮城県立自然公園となっている。また、藩政時代には江戸の商人である渡辺友意が福島から河口までの航路を開削し、舟運が盛んに行われていた。今も当時の舟番所跡を残しており、現在では、阿武隈川舟運の歴史と阿武隈川の溪谷美を活かした観光舟下りが行われ、観光地としても名高い区間である。

仙台平野の南部を流れる下流域は、河床勾配が緩く川幅も広く、雄大な流れをみせており、角田市、岩沼市街地が形成されている。水際にはミクリやタコノアシ、広い高水敷にはオギやヨシ等の群落が形成され、オオヨシキリやセッカ等の生息場となっている。水域にはコイやフナ類等が多く見られ、モクズガニも確認されている。また、砂礫河床となっている早瀬は天然アユやサケの産卵場となっている。

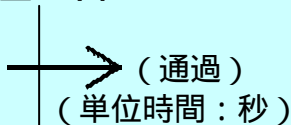
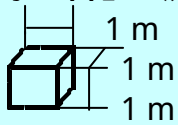
河口部の砂地にはコウボウムギ等の植物群落が見られるほか、ユリカモメ等の集団塹やシギ・チドリ類の休息地になっている。水域には、汽水性のボラやアシシロハゼ等が生息している。また、藩政時代には安定した物資の輸送路確保として、仙台藩初代藩主伊達政宗の命により家臣川村孫兵衛重吉が名取川河口から阿武隈川までの海岸線と平行に木曳堀を開削し、その後も北上川まで運河が延伸され、日本一長い貞山運河として現在も舟運全盛時代の面影を残している。

阿武隈川の河川名の由来は、盆地及び平野部で大きく蛇行しているため「大曲川」と言われたのが語源で、その後、鎌倉時代の歴史書である吾妻鏡に「逢隈」とあり、「おほくま」「あふくま」「あぶくま」と転じて阿武隈川になったといわれている。

阿武隈川は、平安時代の「古今和歌集」や「後撰和歌集」にも詠まれている。また、日本の滝百選に選ばれた乙字ヶ滝は、江戸時代に松尾芭蕉が「おくのほそ道」道中で「五月雨は滝降りうづむ水かさ哉」と句を詠んでおり、昭和初期には高村光太郎が「智恵子抄」の中で「あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川」と歌うなど、阿武隈川は良好な景観を有する河川として知られていた。

阿武隈川は、上流域の白河盆地を過ぎた付近から北向きに流れを変え台風の進路と同じ方向となるため、台風の北上と流出量の増加が重なり、狭窄部による影響と相まって洪水の発生しやすい地形となっていることから過去たびたび甚大な洪水被害を受けてきた。阿武隈川の洪水に関する最古の記録は、「カンジュウシの洪水」と言い伝えられてきた平安時代（寛治四年）の洪水がある。狭窄部においては、古くは天和二年（1682年）から水害の記録が残っている。

【予習】 流量の単位 …… $1 \text{ m}^3/\text{s}$ 、（1立方メートル・パー・セント）（每秒1立方メートル）



流量とは、単位時間内に流れに垂直な、ある横断面を通過した水の容積（ m^3/s 、 ℓ/s ） 1 m^3 は、200 ℓ のドラム缶5本の容積です。

$$\text{流量 } Q (\text{m}^3/\text{s}) = \text{流積 } A (\text{面積} : \text{m}^2) \times \text{平均流速 } v (\text{m/s})$$

あとがき

別れの季節・3月になり、東北地方整備局管内の異動内示が、3月7日（月）にありました。当岩沼出張所内の職員は全て1年未満のため、4月の異動はありませんでした。また、おつきあいをお願い致します。なお、委託の方の異動については、新年度に紹介したいと思います。

「岩沼出張所つうしん」はインターネットでも見られます
仙台河川国道事務所ホームページ <http://www.sendai-mlitgo.jp/>